

平成 24 年 1 月 28 日

M1 坂井孝行

小倉ゼミの紹介

小倉ゼミは、私にとって「勝負力」を磨く場である。それは仕事のみならず、私生活に対しても強く影響する。入学後 1 年経って「勝負力」が増している自分に気づく。小倉先生から吸収することは限りなく多い。

1. 小倉行雄教授について

小倉ゼミは当然、小倉先生なくては存在しない。そこで小倉先生の簡単な説明をする。小倉先生は、経営学、経営戦略論、地域経済論、地域産業論が専門の教授である。長い間、福井県立大学大学院で社会人向けに指導されてきた。現地調査であるフィールドワークを大切にしている。考える方法や文章を書く力など、仕事力に結びつく学びを中心にご指導いただいている。放送大学の他の教授は、多くて月 1 回のゼミを開催するのに対して、小倉先生は、月 3 回もご指導くださっている。貴重で熱い教授である。

2. 小倉ゼミの特徴

小倉ゼミは、月 3 回のゼミ活動を行っている。その他に年 3 回のフィールドワークを取り入れている。これらは、通信制大学では極めてめずらしい活動と言える。具体的には下記のとおりである。

(1) ゼミ活動本体

小倉ゼミでは、毎月 3 回のゼミを開催している。ゼミ活動は、論文を書く力というより、論文を書くために必要な基礎力をつけることに重点を置いている。

①第 1 ゼミ

第 1 ゼミは、定例ゼミと呼ばれており、第 2 土曜日、東京文京学習センターで開催している。内容は、多岐にわたる。たとえば、小倉先生の著書である『論文づくりの方法論』を用いて全員で読み合わせを行う。毎月出る宿題について、模範解答と自分の回答との比較分析を行う。ゼミ生がレポート発表を行い、それについて意見を述べ合う等である。

②第 2 ゼミ

第 2 ゼミは、第 1 ゼミを開催した次の日の午後に、幕張の放送大学本部で開催している。内容は、第 1 ゼミで学びきれていないことを、作業を交えて行う。文章の書き方などをより詳しく、丁寧にご指導いただける機会となっている。

③第 3 ゼミ

第 3 ゼミは、第 4 土曜日の午後に、幕張の放送大学本部で開催している。これも第 2 ゼ

ミと同様に、作業を交えてより丁寧にご指導いただける。

(2) フィールドワーク

小倉ゼミでは、年間3回のフィールドワークを実施している。これは、座学では学び得ない、体を使って五感で学べるよい機会である。フィールドワークと論文づくりは、直接関係しない。しかし、まったく関係していないかといわれると、関係している部分もある。それは準備部分に大きなウェイトをおいている点である。論文づくりもフィールドワークも調べることから始まる。これが基本となる。事前調査なしにはありえないのである。フィールドワークでは、事前に学んだことを自分の目でみて、肌で感じることは、とても貴重な体験となる。放送大学では、小倉ゼミ以外で実践しているゼミはない。

今年は8月に、大阪の商店街およびショッピングモールを調査訪問した。12月には、長野県の伊那食品工業および小布施町の調査訪問を実施した。3月には、毎年恒例の日本高純度化学を調査訪問する。

3. 気づくこと

これまでに、これほど忙しく充実した時間があっただろうか。残り1年が待ち遠しくもあり、寂しくもある。それは、単にゼミを卒業するという達成感だけではなく、勝負力を磨く場を失うという喪失感が、大きく自分にのしかかる。残り1年で勝負力をぞんぶん引き上げたい。これが今できることと感じている。

以上